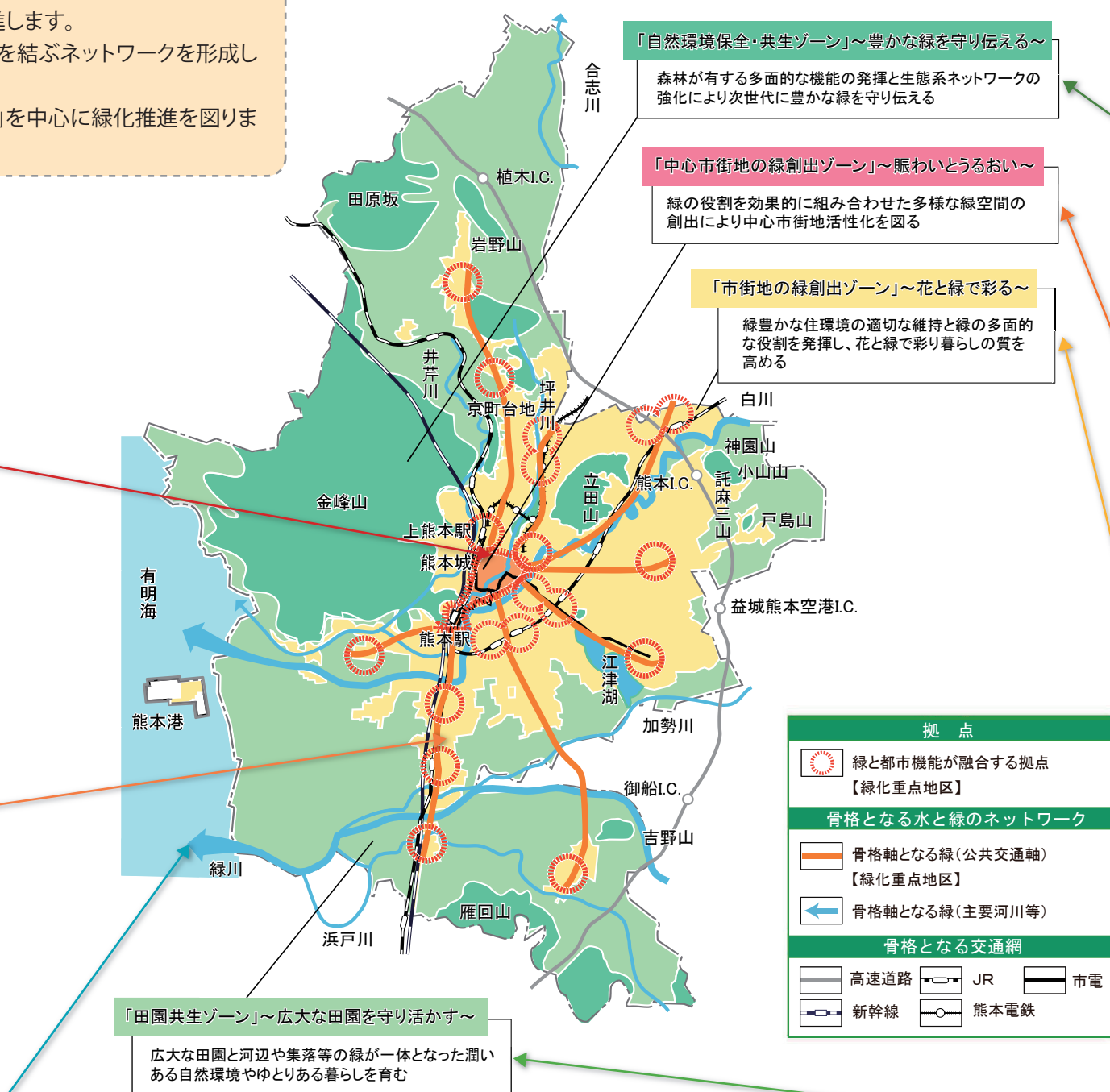


第5章 重点的取り組み ～ゾーン区分と緑化重点地区～

- 本市の地勢の特徴等を踏まえ、市内に「中心市街地」、「市街地」、「田園共生」、「自然環境保全」の4つのゾーンを設け、それぞれの特色を活かした取り組みを推進します。
- 地域の「拠点」や「骨格となる水と緑のネットワーク」を設定し、拠点を結ぶネットワークを形成します。
- 中心市街地と15の地域拠点、更には公共交通軸の「緑化重点地区」を中心に緑化推進を図ります。



■緑化重点地区

1) 中心市街地

中心市街地は、「熊本市中心市街地活性化計画」に掲げる区域です。魅力的な緑空間の創出により中心市街地の活性化を図ります。

2) 地域拠点(15箇所)

「熊本市都市マスタープラン」に掲げる15の地域拠点では、商業・医療等の日常生活の都市機能と緑が融合したインフラ整備、オープンスペースの確保、民有地の緑化等を推進し、身近な緑を感じ親しめる地域を創ります。

3) 中心市街地と地域拠点を結ぶ公共交通軸

各地域拠点を結ぶ道路網では、連続する緑のネットワーク軸として結び、街路樹などの景観や環境に配慮し、適切に配置された花と緑の美しい空間を創ります。

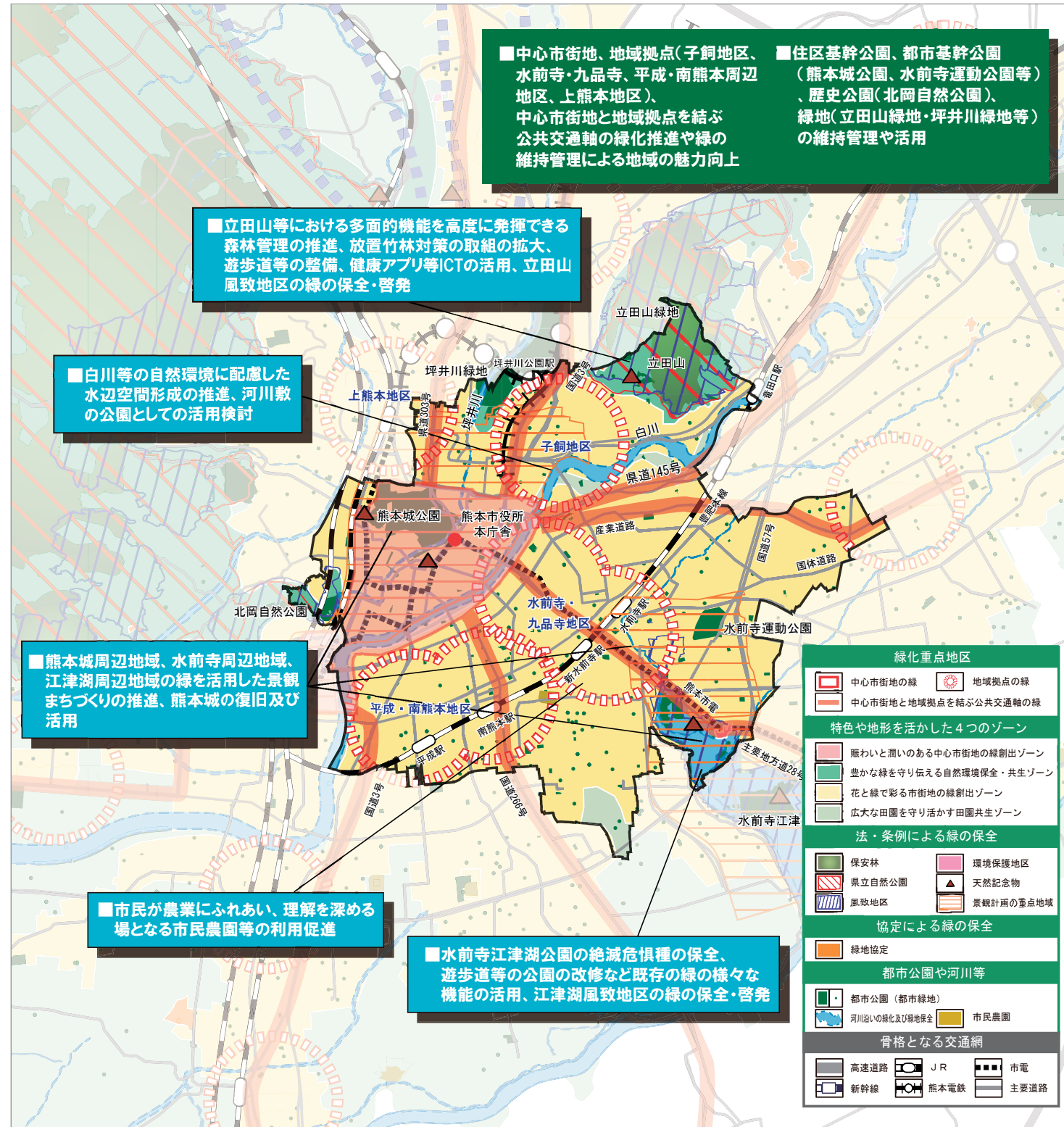


第6章 区ごとの緑化方針

中央区、東区、西区、南区、北区の5つの区毎に、緑の特性・役割や課題、緑の目標と方針を定めました。

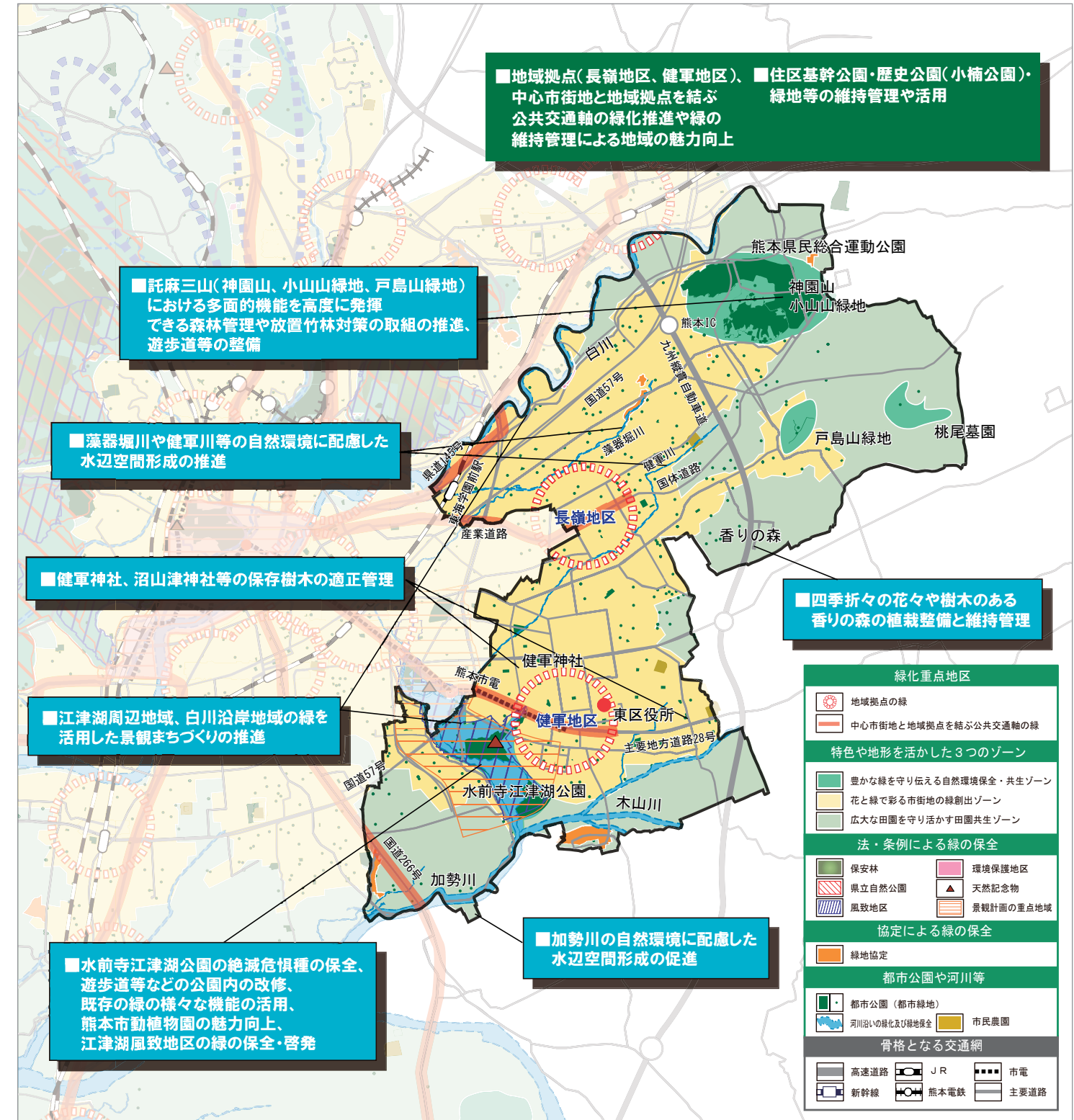
中央区 緑の目標と方針

風格のある熊本城、市街地の貴重な緑である立田山、中心市街地の新たな緑、白川や坪井川等の水辺にある緑などを活かしながら、賑わいと活力にあふれ品格のある「森の都」の実現に向けた緑のまちづくりを推進します。



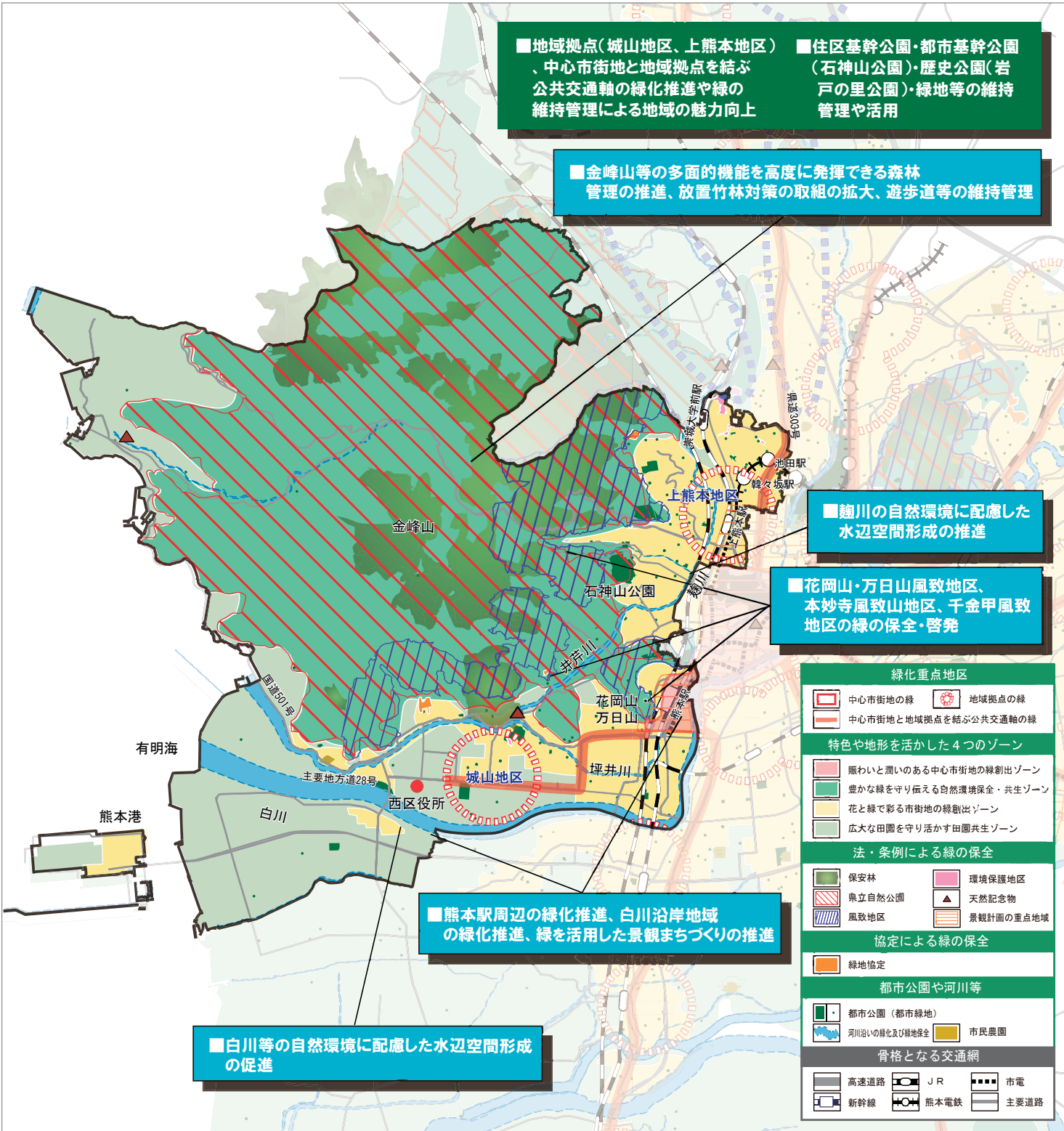
東区 緑の目標と方針

豊富な湧水に満ちた江津湖の緑、託麻三山の緑、加勢川等の水辺の緑などを活かしながら、自然が豊かで笑顔あふれる「森の都」の実現に向けた緑のまちづくりを推進します。



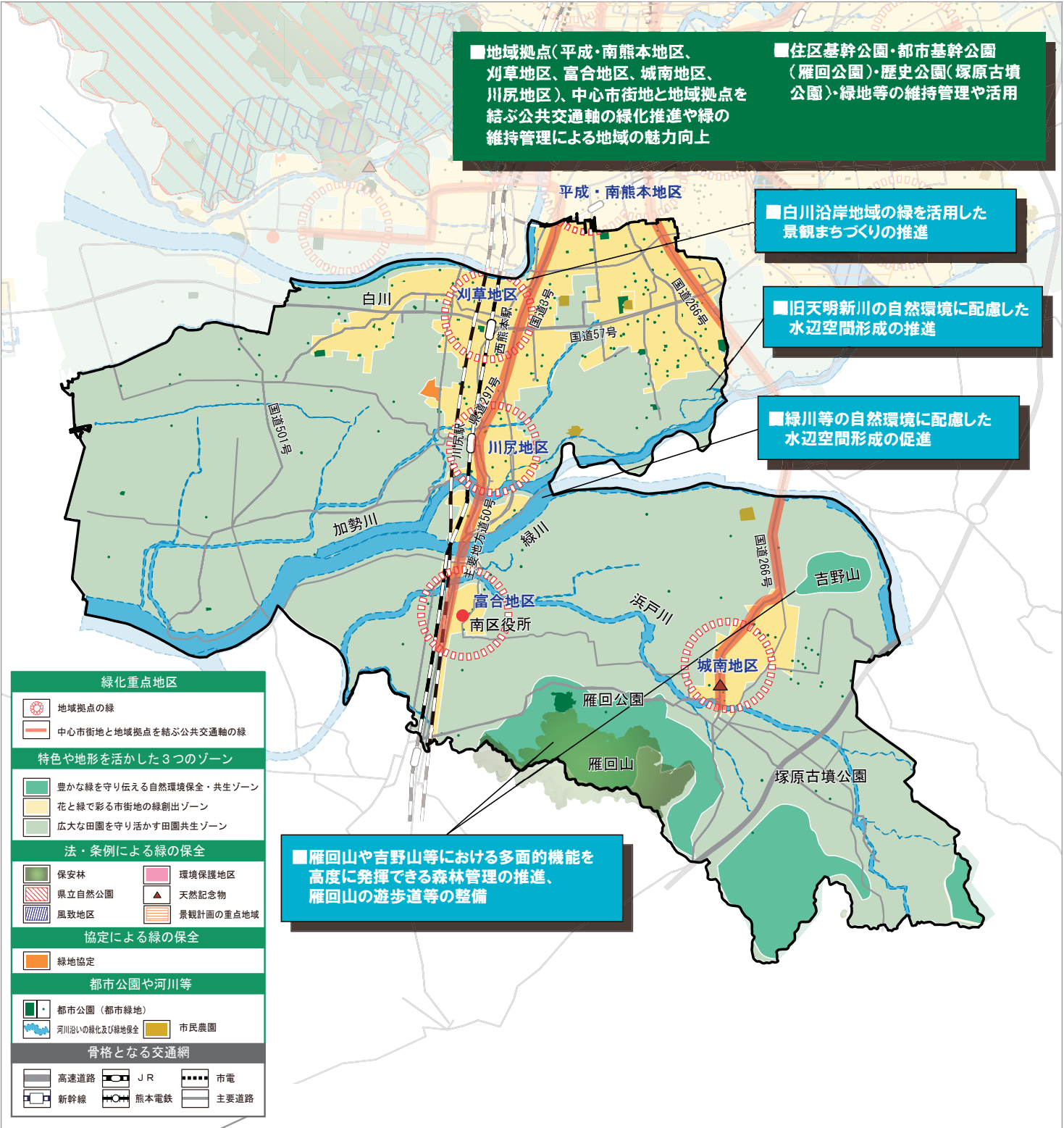
西区 緑の目標と方針

本市の代表的な山である金峰山の緑、玄関口である熊本駅やその背後にある花岡山・万日山の緑、白川等の水辺の緑などを活かしながら、豊富な緑が連なり華のある「森の都」の実現に向けた緑のまちづくりを推進します。



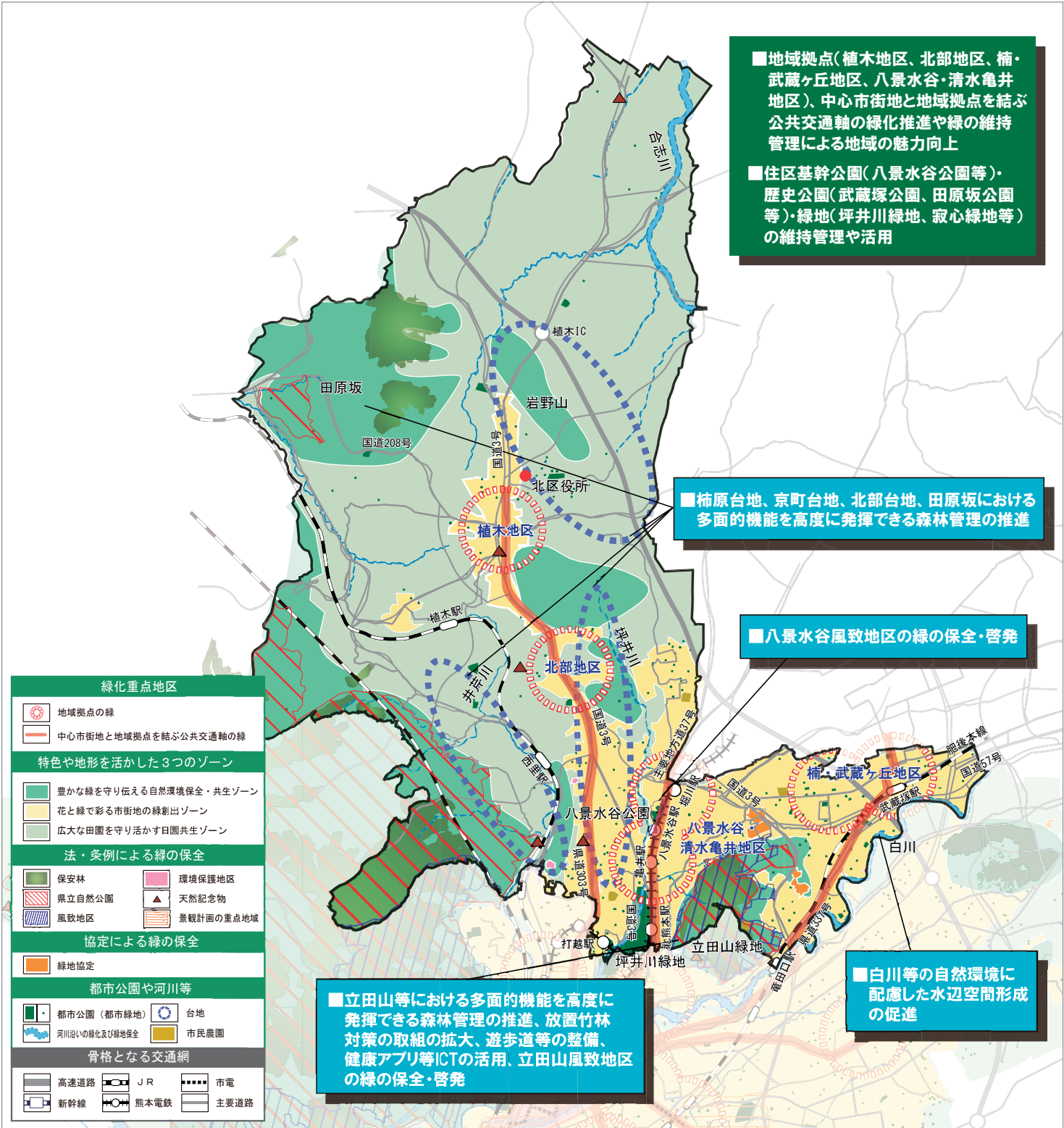
南区 緑の目標と方針

広大な田園や雁回山の緑、緑川・加勢川・浜戸川等水辺の緑などを活かしながら、自然が豊かでいきいきとした暮らしのある「森の都」の実現に向けた緑のまちづくりを推進します。



北区 緑の目標と方針

本市の代表的な金峰山や市街地の貴重な立田山、京町台地や北部台地の斜面林などの緑、白川・坪井川等の水辺の緑、八景水谷等の水源などを活かしながら、ずっと住み続けたい「森の都」の実現に向けた緑のまちづくりを推進します。



第7章 進行管理

本計画を着実に推進していくためには、計画に掲げる施策・事業を確実に実行するとともに、その進捗状況を的確に評価し、必要に応じて計画を見直すことが必要です。

そこで、本計画では、PDCAサイクルの考え方をを用いて、以下の図に示す手順で年1回計画の進行管理を行います。

特に進捗状況の把握・評価(CHECK)の手法としては、庁内関係課による会議体(庁内連絡会議)を構成するとともに、新たな組織(仮称「緑の基本計画推進委員会」)を設置して、外部からの評価を行います。

